

第217回 信用保証利用企業動向調査

(2023年4～6月期実績、2023年7～9月期見通し)

福岡県信用保証協会は、株式会社日本政策金融公庫と共同で、福岡県信用保証協会をご利用いただいている中小企業に対し、景況・金融動向を把握するため、四半期毎にアンケートを実施のうえ発表しています。

なお、次回の発表は2023年11月を予定しています。



— 今回の調査 —

【調査時点】	2023年6月中旬
【調査対象】	1,584企業
【有効回答数】	538企業（回答率34.0%）
【調査方法】	封書によるアンケート調査



～ 福岡県内の景況・金融動向 ～

「県内信用保証利用企業の景況は、持ち直しの動きがみられます」

生産・売上 卸売業、サービス業を除く業種で改善し、特に小売業で大幅に改善しました。

採算 卸売業を除く全ての業種で改善し、特に製造業、建設業、小売業で大幅に改善しました。

資金繰り 卸売業を除く全ての業種で改善し、特に製造業、建設業で大幅に改善しました。

借入難易感 建設業、卸売業を除く業種で改善しました。

■お問い合わせ先

保証統括部 保証企画課 廣瀬・西村 電話092(415)2609

URL : <https://www.fukuoka-cgc.or.jp/> Mail : hoshou-kikaku@cgc-fukuoka.jp



概況

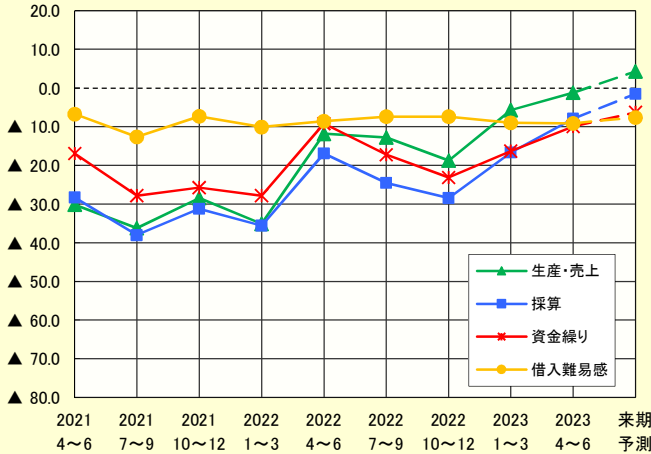
総合DIの推移

コメント ▶ ~全国と同様、福岡の景況も持ち直しの動きがみられる~

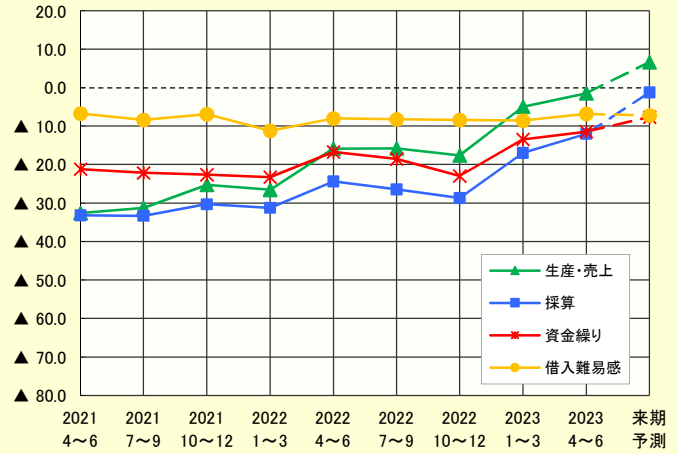
今期調査(2023年4~6月期)による景況動向指数は、前期(2023年1~3月期)実績に比べ、全国値では、生産・売上DI、採算DI、資金繰りDIおよび借入難易感DIはマイナス幅がやや縮小しました。

福岡では、採算DIおよび資金繰りDIはマイナス幅が縮小、生産・売上DIはマイナス幅がやや縮小、借入難易感DIは横ばいとなりました。来期予測について、全国では借入難易感DIが悪化する見込みとなっておりますが、福岡では借入難易感DIを含め全ての指数で改善する見込みとなっております。

福岡



全国



※景気動向指数DI(Diffusion Index)とは・・・

景気動向指数DIとは、景気の現状と先行きを予測する動向指数で、アンケート調査において、前期に比べ、「増加(または、好転、容易)」と回答した企業割合から、「減少(または、悪化、困難)」と回答した企業割合を差し引いた数値から、季節的な変動要因(季節調整値)を控除した数値です。

TOPICS

◆『令和5年梅雨前線豪雨による災害』により被災された中小企業者への支援について◆

このたびの豪雨により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう、心よりお祈り申し上げます。

被災された中小企業者の方への金融支援として、既存の福岡県緊急経済対策資金と別枠でご利用いただける『緊急特別融資枠』が創設されましたので、ご利用ください。

福岡県緊急経済対策資金『緊急特別融資枠』	
融資対象者	令和5年梅雨前線豪雨※で被災された県内中小企業 ※「令和5年6月29日からの大雨」、「令和5年7月2日からの大雨」、「令和5年7月7日からの大雨」
融資限度額	3,000万円(既存県緊急経済対策資金とは別枠)
対象資金	災害復旧に係る設備資金・運転資金
融資期間	10年以内(据置2年以内)
金利	年0.90%
信用保証料	年0.00%
担保	必要に応じて
連帯保証人	必要に応じて、ただし法人代表者以外原則不要
受付期間	令和5年7月28日~令和6年3月31日



福岡県信用保証協会

本所保証統括部



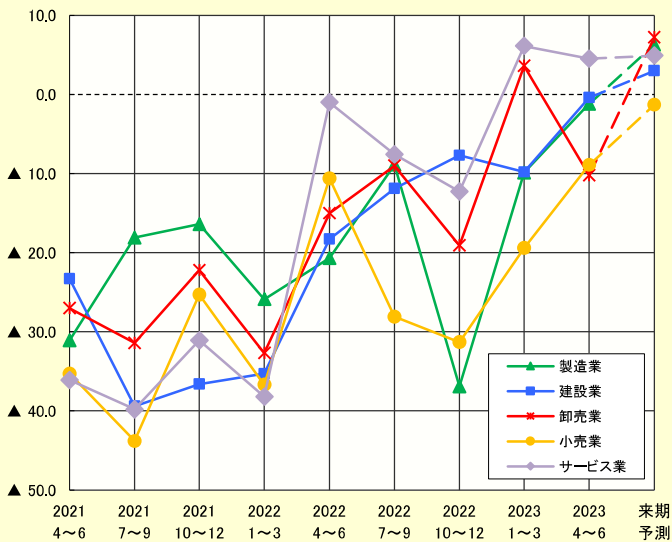
0120-112-249

生産・売上DI

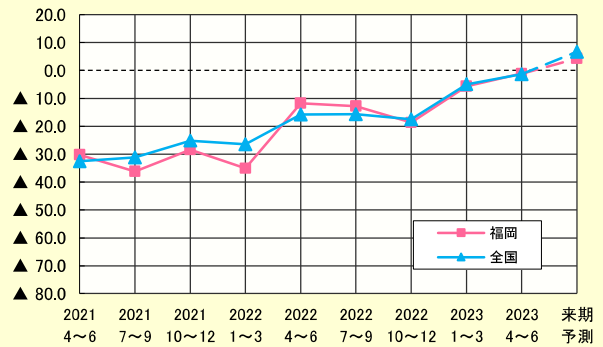
コメント ～卸売業、サービス業を除く業種で改善し、特に小売業で大幅に改善～

生産・売上DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ4.5ポイントやや改善し、▲1.2となりました。
業種別では、前期実績に比べ、小売業は10.5ポイント大幅に改善し、建設業は9.4ポイント、製造業は8.7ポイント改善しました。
一方で卸売業は13.8ポイント大幅に悪化し、サービス業は1.6ポイントやや悪化しました。
来期予測では、全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の実産・売上DI推移(業種別)



全国と福岡県の実産・売上DIの総合



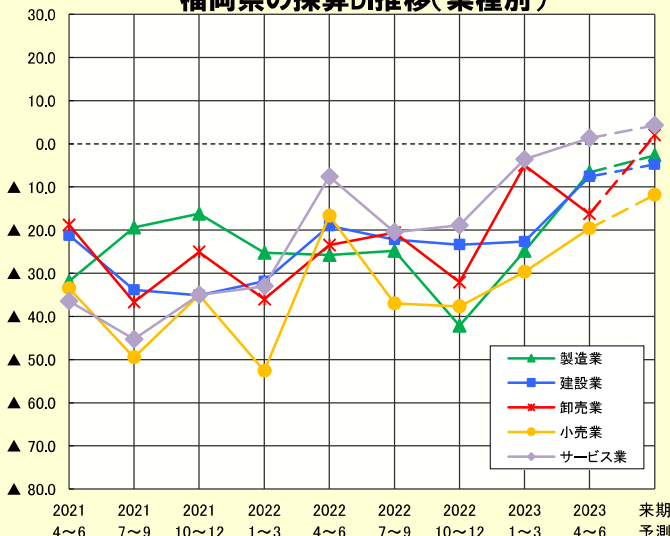
福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	1.0	▲1.2	4.3
製造業	6.3	▲1.2	6.3
建設業	▲0.5	▲0.4	3.0
卸売業	▲5.0	▲10.2	7.2
小売業	▲2.4	▲8.9	▲1.3
サービス業	4.9	4.5	4.9

採算DI

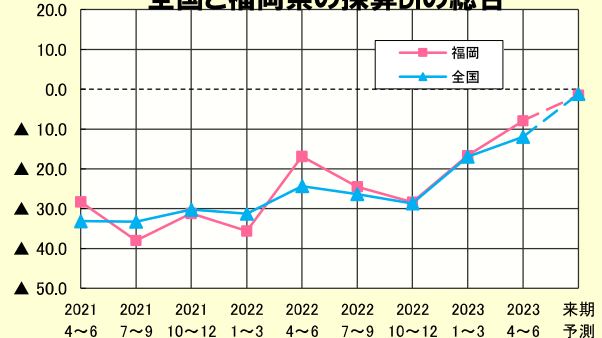
コメント ～卸売業を除く全ての業種で改善し、特に製造業、建設業、小売業で大幅に改善～

採算DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ8.8ポイント改善し、▲7.9となりました。
業種別では、前期実績に比べ、製造業は18.3ポイント、建設業は15.1ポイント、小売業は10.1ポイント大幅に改善し、サービス業は4.9ポイントやや改善しました。一方で卸売業は11.3ポイント大幅に悪化しました。
来期予測では、全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の採算DI推移(業種別)



全国と福岡県の採算DIの総合



福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲5.4	▲7.9	▲1.5
製造業	▲6.5	▲6.6	▲2.7
建設業	▲1.1	▲7.6	▲4.8
卸売業	▲3.1	▲16.3	2.0
小売業	▲6.4	▲19.6	▲11.8
サービス業	▲10.3	1.3	4.3

資金繰りDI

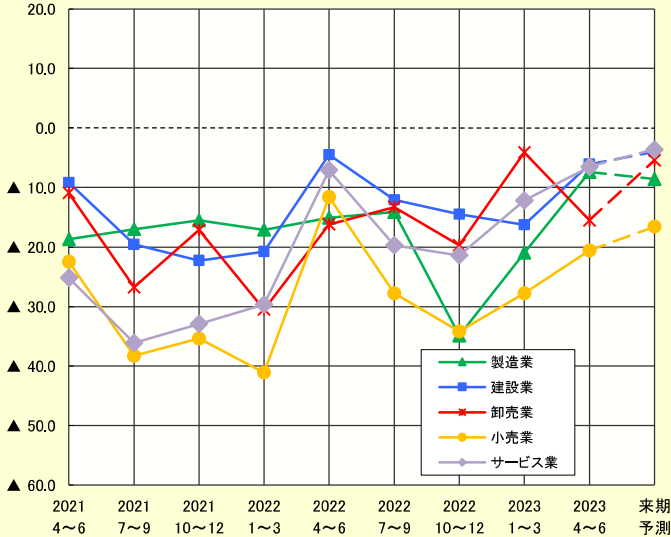
コメント ～卸売業を除く全ての業種で改善し、特に製造業、建設業で大幅に改善～

資金繰りDIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ6.4ポイント改善し、▲9.9となりました。

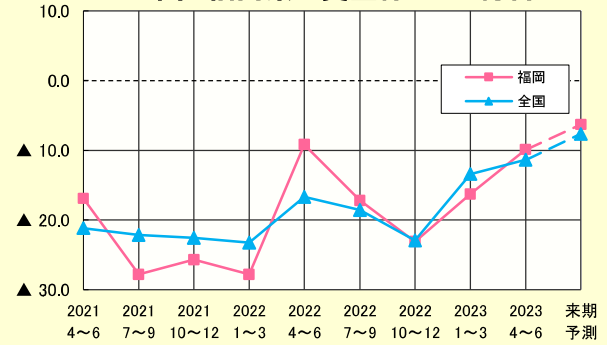
業種別では、前期実績に比べ、製造業は13.6ポイント、建設業は10.2ポイント大幅に改善し、小売業は7.2ポイント、サービス業は5.7ポイント改善しました。一方で卸売業は11.4ポイント大幅に悪化しました。

来期予測では、製造業を除く全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の資金繰りDI推移(業種別)



全国と福岡県の資金繰りDIの総合



福岡		前期予測	今期実績	来期予測
総	合	▲12.1	▲9.9	▲6.3
製	造業	▲15.8	▲7.4	▲8.6
建	設業	▲4.1	▲6.1	▲4.0
卸	売業	▲11.7	▲15.5	▲5.4
小	売業	▲17.3	▲20.6	▲16.6
サ	ービス業	▲16.5	▲6.5	▲3.6

借入難易感DI

コメント ～建設業、卸売業を除く業種で改善～

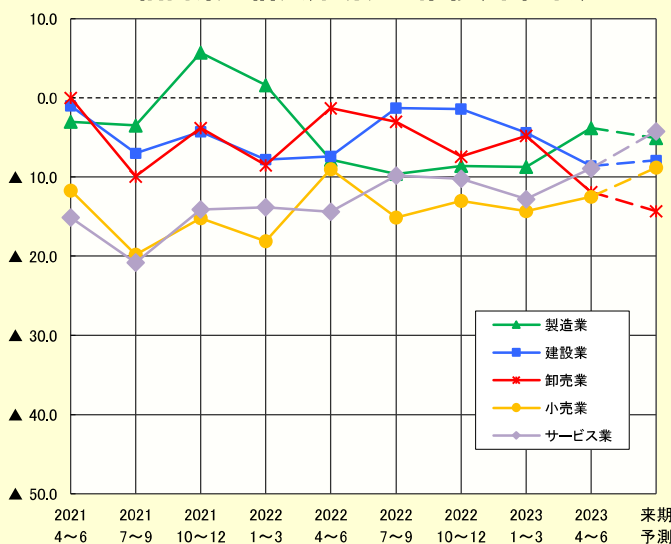
借入難易感DIについて、福岡総合値では、前期実績と比べ横ばいの▲9.1となりました。

業種別では、前期実績に比べ、製造業は4.9ポイント、サービス業は3.9ポイント、小売業は1.8ポイントやや改善しました。

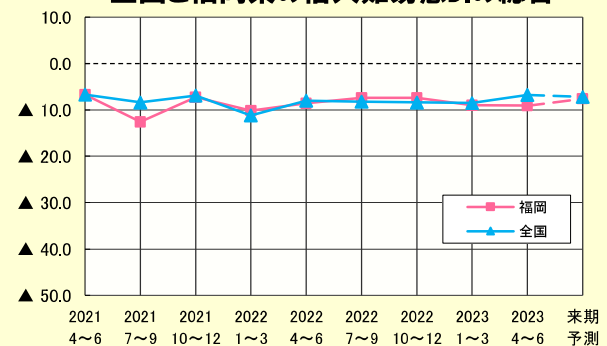
一方で卸売業は7.1ポイント悪化し、建設業は4.2ポイントやや悪化しました。

来期予測では、製造業、卸売業を除く業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の借入難易感DI推移(業種別)



全国と福岡県の借入難易感DIの総合



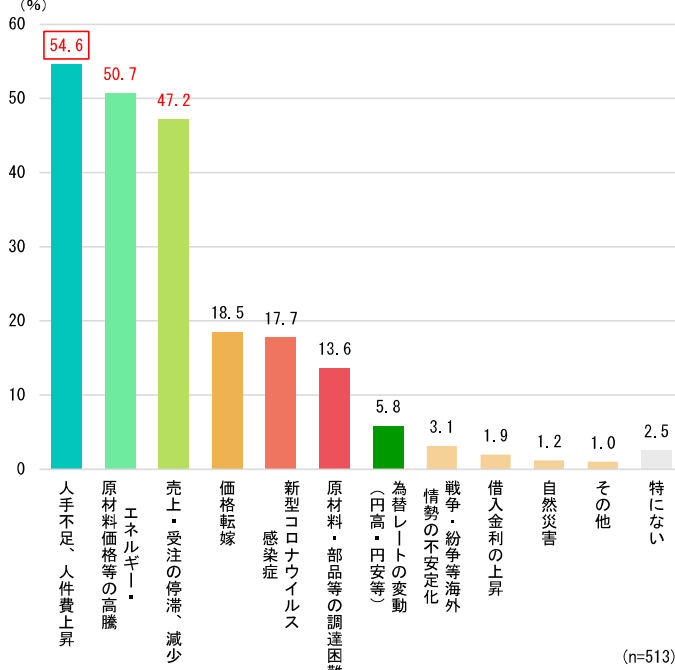
福岡		前期予測	今期実績	来期予測
総	合	▲11.3	▲9.1	▲7.6
製	造業	▲20.7	▲3.8	▲5.1
建	設業	▲4.4	▲8.6	▲7.9
卸	売業	▲9.4	▲11.9	▲14.3
小	売業	▲18.7	▲12.5	▲8.8
サ	ービス業	▲11.2	▲8.9	▲4.2

経営環境において直面している課題及びメインバンクとの対話状況等について

1. 経営環境において直面している課題について

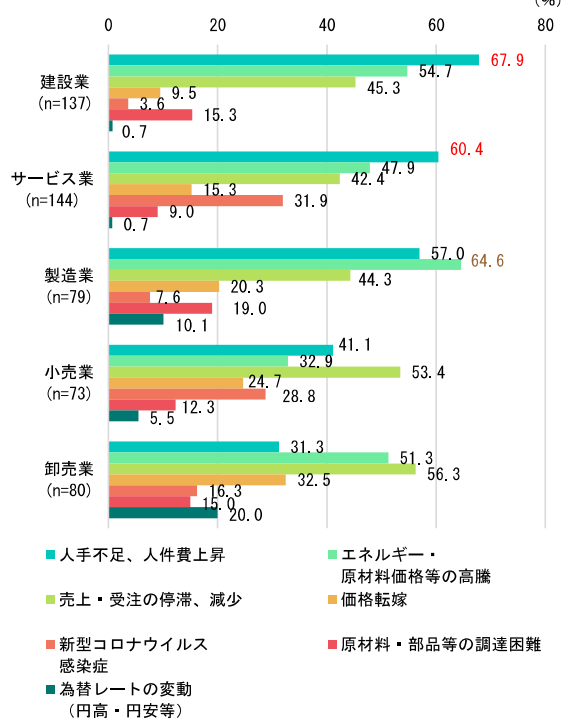
・経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」が54.6%と最も多く、次いで「エネルギー・原材料価格等の高騰」(50.7%)、「売上・受注の停滞、減少」(47.2%)の順になっている。
 ・業種別にみると、建設業、サービス業では「人手不足、人件費上昇」が最も多く(建設業67.9%、サービス業60.4%)、製造業では「エネルギー・原材料価格等の高騰」が64.6%と最も多い。

(1) 経営環境において直面している課題



(注)3つまで回答可のため、合計は100%を超える。

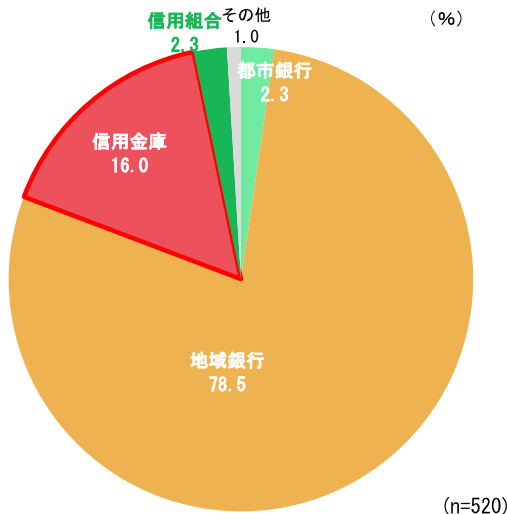
(2) 経営環境において直面している課題【業種別】



2. メインバンクとの対話状況等について

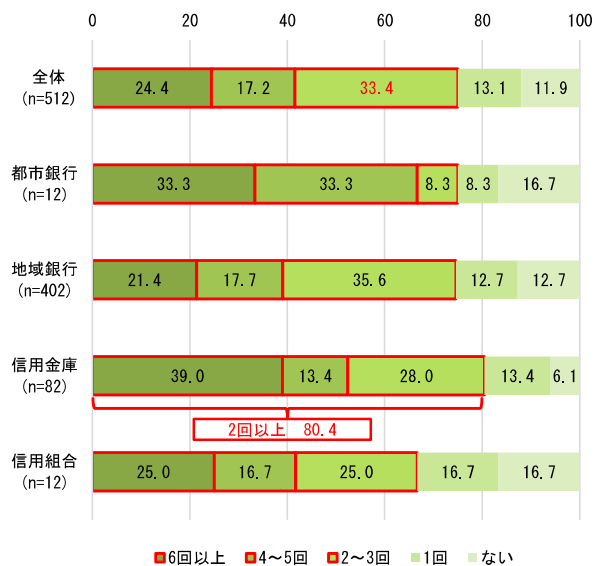
・保証利用企業のメインバンクについては、「地域銀行」が78.5%と最も多く、次いで「信用金庫」(16.0%)、都市銀行(2.3%)及び「信用組合」(2.3%)の順になっている。
 ・メインバンクとの対話頻度(2023年1月~6月の間)については、「2~3回」が33.4%と最も割合が高く、2回以上対話している割合は「信用金庫」が80.4%と最も高い。

(1) 保証利用企業のメインバンク



(注1) 都市銀行: 都市銀行及び信託銀行
 (注2) 地域銀行: 地方銀行及び第二地方銀行
 (注3) 対話: 訪問、面談、電話、オンライン等の手段により、金融機関と対話したものをいう

(2) メインバンクとの対話頻度(2023年1月~6月の間)【業態別】

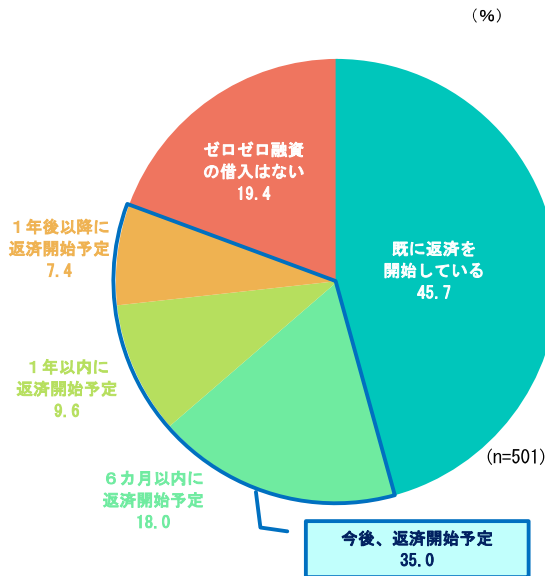


■6回以上 ■4~5回 ■2~3回 ■1回 ■ない

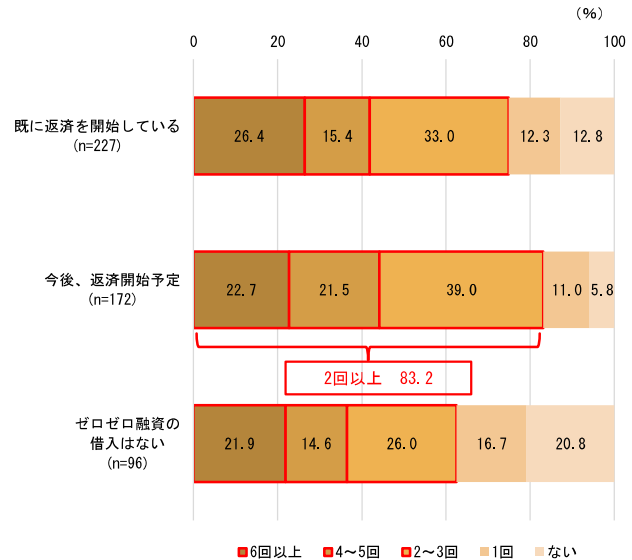
2. メインバンクとの対話状況等について

- ・メインバンクからのゼロゼロ融資*の借入状況については、「既に返済を開始している」が45.7%、「今後、返済開始予定」は35.0%となっている。
- ・メインバンクとの対話頻度(2023年1月～6月の間)については、ゼロゼロ融資借入状況別にみると、「今後、返済開始予定」は2回以上対話している割合が83.2%と最も高い。

(3)メインバンクからのゼロゼロ融資の借入状況



(4)メインバンクとの対話頻度(2023年1月～6月の間)【ゼロゼロ融資借入状況別】

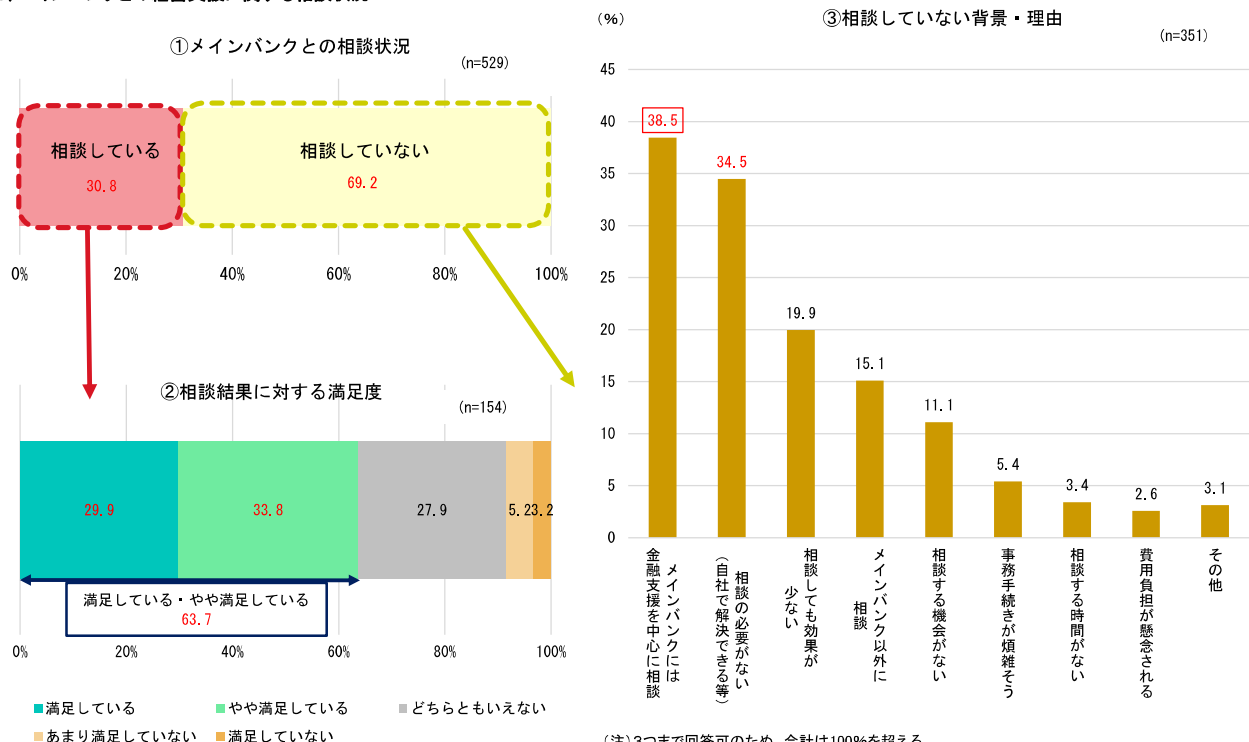


(注)ゼロゼロ融資：2020年5月に創設された民間金融機関における実質無利子・無担保のコロナ関連融資のことであり、国が保証料補助・利子補給を行う融資制度を指す。

2. メインバンクとの対話状況等について

- ・メインバンクとの経営支援に関する相談状況については、「相談している」が30.8%、「相談していない」が69.2%となっている。
- ・「相談している」と回答した企業における相談結果に対する満足度については、「満足している」及び「やや満足している」を合わせた割合が63.7%となっている。
- ・「相談していない」と回答した企業における相談していない背景・理由については、「メインバンクには金融支援を中心に相談」が38.5%と最も多く、次いで「相談の必要がない(自社で解決できる等)」(34.5%)の順になっている。

(5)メインバンクとの経営支援に関する相談状況

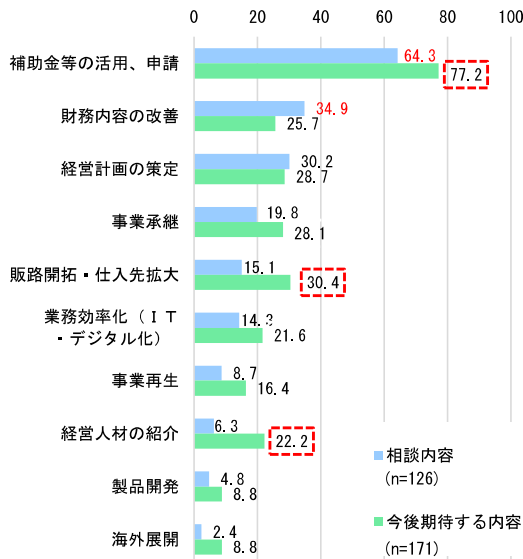


(注)3つまで回答可のため、合計は100%を超える。

2. メインバンクとの対話状況等について

- ・メインバンクに相談している、個々の支援内容(相談内容)については、「補助金等の活用、申請」が64.3%と最も多く、次いで「財務内容の改善」(34.9%)の順になっている。
- ・今後期待する内容については、「補助金等の活用、申請」、「販路開拓・仕入先拡大」、「経営人材の紹介」の割合が、相談内容の割合よりも顕著に高くなっている。
- ・個々の支援内容に関する相談の満足度については、「補助金等の活用、申請」、「財務内容の改善」、「業務効率化(IT・デジタル化)」、「製品開発」が、「満足している」及び「やや満足している」で6割以上となっている(補助金等の活用申請68.0%、財務内容の改善63.9%、業務効率化(IT・デジタル化)62.5%、製品開発66.7%)。

④個々の支援内容(相談内容、今後期待する内容)(%)



(注)複数回答可のため、合計は100%を超える。

⑤個々の支援内容に関する相談の満足度

